（３）まとめ

Ａ市の連続放火は敷地内侵入型，Ｂ市の連続放火は屋外放置物品着火型と位置付けた．一般的に放火は建物以外の公共空間で行われることが多く空間的側面から見るとＢ市の連続放火は一般的な放火のパターンを踏襲していると言える．しかし，見方を変えることで敷地内侵入型放火や屋外放置物着火型放火のように，特徴を抽出することができる．これは，連続放火の可能性が高い火災について初期段階でこのような分析を行うことで，ある程度，放火犯の特徴を探り，放火防止，犯人検挙につなげていくことができる可能性があることがいえる．特に発生空間の特徴を抽出することで事前の予防策を取ることが出来る．例えば，Ａ市の連続放火の場合は敷地内侵入型なので，通常の放火防止策（着火物制御）よりも敷地内への侵入を防ぐことが重要になる．

このように連続放火の事例を集め詳細に分析をすることで，被疑者の特性と地域の特性から放火場所が特定できる．連続放火の初期段階の数少ないデータからの次回犯行空間の予測が可能である．